

委員長メッセージ

全群馬教職員組合 執行委員長 田中光則

本日は、ぐんま教育のつどいへのご参加ありがとうございます。

教員不足が止まりません。小中学生の不登校は34万人を超えました。

私たち全群教は、これらの問題は地続きだと考えています。

学校への管理統制がどんどん強まっています。全国学力テストによって「国語と算数のテストの点数が学力である」という指標ができました。教育委員会は「テストの点数だけが学力ではない」と言いますが、ニュースで順位が発表されるため、「県平均を下げない」ように必死です。これは一例に過ぎず、あらゆる面で学校に「結果責任」が求められるようになりました。目先の点数、目先の体力、目先の素直さ、そうした分かりやすい結果を出す人が「優秀な先生」と評価されます。10年後、20年後の人格形成を考え、子どもに寄り添った指導をしたとしても評価されません。

そして教育委員会は指導のための模範解答を作ってくれます。その通りにやって結果が出なければ、「ちゃんとやったのだから仕方ない」となります（「模範解答が間違っていたのかも…」という発想にならないのが不思議なところ）。それぞれの先生が工夫した独自の方法で子どもたちと向き合った教育を行って、短期的・数値的な結果がでなければ「何で言われた通りにやらなかったんだ！」となります。であれば、怒られないためには「言われた通りにやる」ことが最適解です。先生たちは結果ばかり気にして、安心して教育に臨みません。

今、先生にとって学校が「つまらない場所」になっています。先生が「つまらない」と感じているものを、子どもたちが「楽しい」と感じるはずがありません。私たちは教育のつどいを通して、学校に「楽しさ」を取り戻したいと考えています。学校が、先生にとっても、子どもたちにとっても、安心できる楽しい場所であれば、先生の不登校も子どもたちの不登校も激減するはずです。半日という短い時間ですが、集い合い、学び合うことで、「月曜日が待ち遠しくなる学校」を一緒に作っていきましょう。

2025年2月9日